

コアレックス信栄 G7 広島サミットで採用 使用済みミネラルウォーター紙容器を独自技術によって トイレットペーパーの原料として再資源化

コアレックス信栄株式会社（本社：静岡県富士市、代表取締役社長：黒崎暁、以下「コアレックス信栄」）は、このたび2023年5月19日から21日に開催されたG7広島サミットの会議会場並びに関連施設内において、日本テトラパック株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：アレハンドロ・カバル、以下、「日本テトラパック」）他と協業し、提供された、日本テトラパック社製の使用済み紙容器の分別、回収からリサイクルまでを一貫して行う資源循環を実現し、G7広島サミットにおける気候変動対策への取り組みを多面的に支援しました。



出展：日本国外務省、首相官邸

サミット会場となったホテル、パートナーズプログラム、国際メディアセンターへアルミ付き紙容器のミネラルウォーターが提供され、再生紙メーカーであるコアレックス信栄は、国際メディアセンター内にミネラルウォーター紙容器専用の回収ボックスを設置することで、施設内で発生した使用済み紙容器を分別回収するルートを設けました。回収された紙容器は、コアレックス信栄にてトイレットペーパーやティッシュペーパーなどの資源としてリサイクルされます。今回、G7サミットで提供されたミネラルウォーターは、『テトラ・プリズマ®アセプティック 330ml スクエア ドリ ームキャップ™ 26』入りの製品です。この紙容器には FSC®（森林管理協議会）認証マークが掲載されています。また一部の製品には、植物（サトウキビ）由来のポリエチレン製のキャップが採用されており、植物由来の素材を使用することで、再生可能資源の使用率 63%、二酸化炭素排出量の削減率 7%を実現しています。



国際メディアセンターで提供されたミネラルウォーター類製品

(『テトラ・プリズマ®アセプティック 330ml スクエア ドリームキャップ™ 26』紙容器入り)

左から：株式会社ハバリーズ、富士ミネラルウォーター株式会社、三井農林株式会社（50音順）

コアレックス信栄は、一般的には再生が困難とされているアルミ付き紙製容器も独自技術によって、アルミ蒸着された状態かつキャップが一体となっている状態であっても製造工程の中で分離、紙繊維のみを抽出し製品化する事が可能です。更に、分別された異物についても再資源化の流れを確立しゼロ・エミッションを達成しています。



※使用済み紙製容器再資源化の様子

コアレックス信栄について

「より環境に優しく、より高品質な紙をつくる。」という理念のもと、「地球にいいこと」「緑の地球を子どもたちへ」を永遠のテーマに、古紙再生の可能性を追求し革新的な技術を生み出し続ける総合エンジニアリング企業体です。毎日に欠かすことのできない「紙」のリサイクルを担う企業として、皆さまの暮らしや環境への貢献に取り組んでいます。

ウェブサイト：<https://corelex.jp/>

<コアレックス信栄に関するお問い合わせ>
コアレックス信栄 静岡営業所 総合企画室 宇佐美
MAIL：t-usami@b-web.co.jp